

令和元年度第2回三条市教育事務点検評価委員会会議録

1 開会宣言 令和元年8月8日(木) 午後1時30分

2 場 所 三条市役所栄庁舎応接室

3 出席者 雲尾委員、岡田委員、高橋委員

4 説明のための出席者

長谷川教育長、遠藤教育部長、村上教育総務課長、栗林子育て支援課長、
高橋小中一貫教育推進課長、捧教育センター長、恋塚生涯学習課長、
大谷教育総務課課長補佐、西澤教育総務課庶務係長

5 傍聴人 0人

6 会議次第

(1) 開会

(2) 教育長挨拶

(3) 議事

ア 令和元年度教育に関する事務の点検及び評価報告書(案)について

(4) 閉会

7 会議の経過及び結果

(3) 議事

ア 令和元年度教育に関する事務の点検及び評価報告書(案)について

(ア) 平成30年度教育に関する事務の事後評価シート(委員の意見に対する修正シート)

・小中一貫教育推進課所管分について、高橋小中一貫教育推進課長、捧教育センター長が説明

(雲尾委員長)

今の小中一貫教育推進課の所管部分の1、2の合わせて10項目につきまして確認してまいりますと思いますが、1-(1)につきまして、これでよろしいでしょうか。

1-(2)はいかがでしょうか。

(岡田委員)

4ページこの便りのことについて、第一指標の指標に対する評価のところの最後に、「しかし、6回を上回った学園は3つに留まっており、学園に応じて更なる広報活動が必要である」とさらっと書いてあるのですが、6回を上回った学園の方が少ないわけですよね。

(雲尾委員長)

そうですね。3対6ですので。

(岡田委員)

それはどのような理由を考えているのかということを書いておかないと、次への手立てができないような気がするのです。その辺は必要ではないかと思うのですが、どうでしょうか。

(捧教育センター長)

「6回を上回った学園は3つに留まっており」ということで、5回、あるいは迫っている学園もあるということなのですが、そのような思いがありましたので、「更なる」ということで、それぞれの学園に応じて差があると考えたところです。

(岡田委員)

どうして6回という目標をクリアできない学校が多くあったのかというところをきちんと把握しないと次へ行けないのではないかと思うのですが、そこはどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

(捧教育センター長)

それぞれの学園がそれぞれに応じているところがあると思ひまして、例えばおおじま学園ですと、便りの回数が3回と少ないのですが、実質的には小中一貫教育についての浸透度と申しますか、そういうことは地域によってあると考えております。ただし、今おっしゃったように、便りを出せばもちろん大勢の方に広まっていくというのは間違いありません。

(岡田委員)

最初から6回というのを各学校に目標として持ってもらっていなかったとしたら、そのように頑張らないですね。そういうことであれば、この評価の設定の仕方がちょっと無理だったのではないかなと思うので、もしそうならそのように書いた方がよいのではないですか。3回でも地域に開かれていますよと声を大きくしても、それはちょっとおかしいのではないかなるので。

(捧教育センター長)

必ず6回してくださいという提示の仕方をしていただけではありません。

(雲尾委員長)

その平均を今回消して、そもそも54回にしていた指標が、トータルな数で指標にしているわけですが、トータルな数だったら当然クリアして107%だけれど、各学園6回という目標にしたとすると、9学園のうちの3なので、33.3%という達成率になってしまうのですよね。

でもその計算にはなっていないわけだから、そうすると、各学園6回という目標だったら各学園平均6回だったのかということ、この指標上は平均と見ざるを得ないのですが、今

回平均を消したということは、各学園6回が目標だと考えてよいのですか。

(捧教育センター長)

そうですね。昨年度のものについても各学園6回と。

(雲尾委員長)

各学園3回、4回、5回、6回というように目標として上げてきたということですね。

(捧教育センター長)

各学園の回数と、市全体の両方ということですね。各学園何回で、市全体では。

(雲尾委員長)

市全体は結果としてのものであって、本来は各学園6回出すのが目標だったのが平成30年度だという解釈でよろしいですね。

(捧教育センター長)

そうですね。幾ら多くの学園ができたとしても、回数が少ないものがあるとすると、その部分については弱いと考えることになると思うので、幾ら全体での総数が多くても、それが全ての学園に対して良かったということには、やはり語れないだろうと捉えているところです。

(雲尾委員長)

ですから指標の立て方が悪かったと言えば悪かったわけですね。どちらを重視するかということがこれだと分からないので。

「学園に応じて更なる広報活動」としか書いていないわけですよ。

(岡田委員)

これだけ読むと、どうしてそんなにできなかったのだろうということをきちっと書いた方が分かりやすいと思うのですよね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

おっしゃるとおりで、今回、課でもいろいろ検討する中で、指標の立て方に非常に無理があったという部分があります。現実的にその広報活動については、それぞれの学園の小中一貫教育推進協議会の中で合意をいただいた上でこの回数が定められておりますので、これを一律に各学園6回を目標にするということは推進協議会の意向に反するものにもなりかねないことでありますので、指標の立て方に非常に無理があったと考えております。

ただ、この事務点検評価の中においては、各学園が6回、何とか出してもらいたいという希望的観測を含めて、私たちの方で評価項目とさせていただきましたので、事務点検評価上はこの6回にさせていただいて、指標に対する評価の中はそのような表現に書き変えるということと、実績値は54回を、目標値を上回っているのですが、各学園でいうと目標値に達していないという部分で明記していくという形が望ましいと考えております。指標

の在り方について再考するという事で、今後の方針のところにもしっかりと書き込んでいくという形がよいと考えております。

(岡田委員)

そうすると総合評価の方も、リーフレットと便りがどう違うのか分からないのですが、便りの回数のその第一指標についての評価が何も書いていないので、更なる周知を進める必要があるというように、最後に入っているだけなのですよ。それで最初に、そのモデル校でのコミュニティ・スクールのというのが出てきているので、第一指標の達成状況についての結果もここに書いて、もし書きたいのであれば、最後に書くということが必要だと思うので、コミュニティ・スクールに手を挙げるということが指標に入っていないので、そこのところの書き方も検討をお願いします。

(雲尾委員長)

1－(2)「開かれた学校づくり」であります。第一指標にも、第二指標にもコミュニティ・スクールは出てきていない中で、基本方針にも直接的に書かれていない中で、総合評価と推進方法、どちらもコミュニティ・スクールから始まっているというのがどういうことなのかということでしょうか。

(捧教育センター長)

確かに指標に応じて、第一指標について、第二指標について、そしてコミュニティ・スクールについてという順序で、もう一度総合評価、今後の推進方法についても修正した方がよいと考えました。

この開かれた学校づくりという内容につきまして、開かれていくためにコミュニティ・スクールが大きな役割を果たしているという、そういう思いの中でこれが全面に出てきているような形になっておりますので、その文言の順序等を改めて考えて整理し修正したいと思えます。

(高橋小中一貫教育推進課長)

指標の内容と、それから基本方針の内容、全般においてそうなのですが、平成27年度に策定した際と、今現在の教育活動とが大きく変化しております。27年度当初のコミュニティ・スクールという概念がまだ三条市の中で方向性ということでは定着していなかったところで、施策の基本方針にはありませんが、今現在の教育委員会としては大きくコミュニティ・スクールにかじを切っているところがありまして、どうしてもこの表現は30年度の総合評価の中には入れざるを得ないだろうと考えております。どのような言葉の順番になるかは別ですけれども、コミュニティ・スクールの取組はどうしても入れざるを得ないというところは御理解いただければ有り難いと思っております。

(岡田委員)

去年、何か出てきましたよね。今後の方針か何かのところコミュニティ・スクールというのは何ですかというものを。私、質問したような気がしたのですけれども、そうであれば、前年度の今後の推進方法のところに書いたように一言付け加えればよいのかなと思います。

(雲尾委員長)

昨年、平成 29 年度から設置の努力義務化になりましたので、そこでモデル校を始めるということであれば、当然 27 年度時点ではやるやらないは自由、文科省は 1 割の学校をコミュニティ・スクールにするという目標は立てていたけれど努力義務でもなかったのではなかった。やる必然性はなかったですね。平成 29 年度から努力義務となったが、かといって全部の学校自体にはできないので、29 年度からそのように取り組み始めたから 29 年度に関する点検から書かれてる。だから今年度も書くわけですけど、第一指標、第二指標は変えようがないので、そのままきいているということ。

(岡田委員)

その辺の取組の変化というか、29 年度から取組を始めたというようなことを少し書いておけば唐突のような気がしないですけど。

(雲尾委員長)

その辺を含めて、少し表現を分かりやすくしていただくということでお願いします。

1－(3) もよろしいですか。

1－(4)、7、8 ページ。これもよろしいですか。1－(5)、9、10 ページにつきましてもよろしいでしょうか。

1－(6) ですが、第二指標の 16 種目が 18 種目になったことによって、実績値 50%ではなくなりますよね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

パーセンテージは変更になります。修正させていただきます。

(雲尾委員長)

12 ページの第 2 指標の実績、平成 30 年度の実績値 50%が 32 分の 18 のパーセントになるということで計算して新しい数値を入れていただくようお願いします。そうすると、達成率も合わせて上がるということですね。実績値と目標達成率の 2 つの数字を修正していただくということでお願いします。

ほかにはよろしいですか。

2－(1)、よろしいでしょうか。「2－(2) 市民性を高める教育の推進」。「2－(3) 社会で自立するための特別支援教育の充実」。「2－(4) 学校外における学びの機会の充実」はよろしいでしょうか。

・生涯学習課所管分について、恋塚生涯学習課長が説明

(雲尾委員長)

「3－(1)生涯にわたる学習機会の充実」について、この修正でよろしいでしょうか。

「3－(2)魅力ある多様な学習活動の充実」につきまして、いかがでしょうか。

(岡田委員)

23 ページの総合評価のところなのですが、「延べ5,658人の参加につなげた」というだけの記述と、その最後に「延べ511人がボランティア活動を体験した」という事実を記載しているのですが、それに対してこの評価というか、例えば目標値をしっかりと上回っているとか、このような意識になっていると思うとか、そういう総合評価的なものは入れなくてもよろしいのでしょうか。入れた方が分かりやすいと思うのですが。

(恋塚生涯学習課長)

数字の羅列で、それが伸びているか伸びていないか、目標に達しているかという形だけの表現になっていますので、今後につなげていく上ではそれをもってどうだったのかというところを書いた方がよいと考えます。参加につなげた方々から、体験しただけではなく意見、アンケート等もいただいておりますので、どうだったのかということを少し書かせていただきたいと考えます。

(雲尾委員長)

評価について加筆するということですね。

あと、24 ページの第一指標の書き加えていただいた部分ですが、「延べ5,658人の参加により目標値を大きく上回った。今年度から多くの方の目に触れるように工夫した。」と、文章がつながっているような、つながっていないような部分があります。それから、「工夫した」で句点があって、括弧が始まっていますが、この括弧の内容は工夫の説明ですので、句点は「工夫した」の後の句点を、丸括弧の終わるところに移動しないと、文章的にはおかしいですよ。

ですから、その「大きく上回った」という事実の部分と、「今年度から多くの方の目に触れるように工夫した」というのは、何を工夫したかという。内容は全部後ろに持っていたので、「今年度から多くの方の目に触れるように工夫した」といったときに、その一文だけ見ると、何が目に触れるようになったか分からないですよ。

(恋塚生涯学習課長)

何に工夫したのかということがこの括弧に書いてあることですので、今年度からきっかけの一步事業ではパンフレット等を多くの方の目に触れるような工夫を行ったというような形にさせていただきたいと思います。

(雲尾委員長)

それが、長かったですよね。括弧がなく、前に書いてしまうと長いからこういうふうにしたのだけれど、そうすると分かりにくい。全部戻してしまうと、元と同じことなので、そうならないような工夫をしていただきたいということですよね。前の文章とつながるようにしていただくと同時に、長くない程度にきちんと説明をしていただきたいということをお願いします。

では、3－(2)はそれでよろしいですか。3－(3)についてはよろしいでしょうか。6－(1)の部分も修正がありますが、これでよろしいですか。

・子育て支援課所管分について、栗林子育て支援課長が説明

(雲尾委員長)

4－(1)につきまして、この修正でよろしいですか。4－(2)につきましてもいかがですか。4－(3)につきましてもよろしいでしょうか。

ではこれで1－(2)、1－(6)、3－(2)、3つの部分について修正するということで、修正シートを確認させていただきました。

(イ) 令和元年度教育に関する事務の点検及び評価報告書(案)

・小中一貫教育推進課所管分について、高橋小中一貫教育推進課長、捧教育センター長が説明

(雲尾委員長)

では、1－(1)の部分につきまして。報告書(案)の記述についていかがでしょうか。

(岡田委員)

4ページの今後の方針の下から3行目、「また」というので、前に一つ段落を空けているのですが、これは続きですよね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

そうです。

(雲尾委員長)

改行なしですね。1－(1)はよろしいですか。

では1－(2)ですが、先ほど説明がありましたように、平成30年度の評価と今後の方針併せて書き直すということですが、この部分についてはいかがでしょうか。用語解説の3のところに「コミュニティ・スクールとは」とあるのだけれど、ここに書くか本文の方で書くか、いずれにしても平成29年度から設置の努力義務となっているということについて、どちらかで触れていただければよいと思うのですけれど。

1－(2) よろしいですか。では「1－(3) 教職員の資質や指導力の向上」の部分はいかがでしょうか。よろしいですか。「1－(4) 確かな学力の育成」についてはいかがでしょうか。

平成30年度における評価のところ、1行目は「国語、算数、数学」なのですが、その下は「国語も算数・数学も」となっています。シートの方では算数、数学、やはり上の文章、1行目の部分も「算数・数学」となっているのですよね。

(捧教育センター長)

「算数・数学」に統一したいと思います。

(雲尾委員長)

あとはよろしいですか。「1－(5) 豊かな心を育む心の教育と体験活動の充実」の部分について、いかがでしょうか。

(岡田委員)

8ページの、30年度における評価の項目ですが、評価をCとしていて、前段に具体的な手立てとして集会などの話し合い活動があつて、次にhyper-QUのことが書いてあつて、最後に「いじめや不登校・不適応の発現には」と書いてあるのですが、この最後が唐突に感じました。この「学級集団の状況が影響する」というのはどこからもってきたのか考えてみたら、多分、30年度のいろいろな事例の中で考察していた中に学級集団の状況が影響してきたと考えられたと思ったのですが、そういうことの現状からして、その高い規範意識のある集団にするための研修が必要だということを言いたいのかと思ったのですが、それでよろしいでしょうか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

おっしゃるとおりです。

(岡田委員)

そうすると、これを受けて、今後の方針で満足型学級をつくる方法にも力を入れて指導するというようなことにつながればはっきりするのかと思ったのですが。一般的なことでなくて、30年度の現状としてこういうものが見えてきたので、こういう必要があるという書きの方がよりよいのかなと思いました。

(高橋小中一貫教育推進課長)

評価のところの下3行につきましては、おっしゃるとおり、様々な不適応状態が発生してしまうのは学級集団の状況が影響するということは、hyper-QUの統計的な分析からも見えてきているところです。ここについては、個々の社会的スキルという部分と、それから集団の中の温かい人間関係、高い規範意識の2つが大事であるということが、この評価の3行の中に書かれてありまして、その3行の部分を今後の方針として受けたときに、上段

が満足型の学級集団をつくっていきましょう、下段がスキルを向上させていきましょうという形で分けて書かせていただいております。そのような読み取りができるように、表現を変えさせていただきたいと思います。

(岡田委員)

そして、現状の分析プラス hyper-QU の結果として捉えているということが分かるように。影響するというと、何かとっても一般的な感じで。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。

(雲尾委員長)

では、1－(6)についていかがでしょうか。

(岡田委員)

9 ページの評価の真ん中辺り、「昨年度より」とありますが、昨年度ではなく前年度の方がよろしいのではないのでしょうか。

(雲尾委員長)

そうですね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

変えさせていただきます。

(雲尾委員長)

注6ですが、体力テストとは、全児童生徒の体力・運動能力を測るテストとありますが、指標にしているのは小5と中2でしたか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい、小5、中2の男女です。

(雲尾委員長)

指標として取り上げていて、小学校1年生から中学校3年生まで9学年全部実施しているということで「全」にしているのですか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。

(雲尾委員長)

「全」がなくてもよい気がするのですが。「体力テストとは、児童生徒」と。

では2－(1)についてはよろしいでしょうか。「2－(2) 市民性を高める教育の推進」についてもよろしいですか。「2－(3) 社会で自立するための特別支援教育の充実」についていかがでしょうか。

(岡田委員)

13 ページの主な事務事業の①、特別支援教育事業の中で、「合理的配慮について、「個別の教育支援計画」」しか載っていないのですが。

(雲尾委員長)

シートの方では「「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」」となっているというところですね。

シートの第一指標はそうになっていますね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。

(岡田委員)

それから、今後の方針に「個別の教育支援計画への「合理的配慮」の記載については」と載っていますが、評価のところには載っていないので、今後の方針に載せるのなら、総合評価のところにも入れた方がよいと思うのですが。今年度はどうだったかということ。

(高橋小中一貫教育推進課長)

それを明記したいと思います。

(雲尾委員長)

ほかはよろしいでしょうか。では「2－(4) 学校外における学びの機会の充実」について、いかがでしょうか。

(岡田委員)

14 ページの30年度における評価のところ、大変よくできているということなのですが、評価がBになってしまっています。「9割以上の受講生が学習満足度や学習意欲向上を実感している」のですが、ほんのちょっと下がっているのですよね。今年度はそのところは指標の方では書いてあるのですが、入れなくてもよろしいでしょうか

(雲尾委員長)

指標の方でも言っていますが、結局、実績値はほんの少し下がっているだけですが、目標値が上がっているがために達成率はかなり下がったように見えるという辺りですので、余り触れていなかったということですか。

(岡田委員)

その辺をしっかりと書いておいた方がよいかと思ったのですが。

(雲尾委員長)

Bであるので逆に書かなかったのですかね。CかAだと特記するのだけれど、Bなので、特記しなかった。

シートの第一指標で書いているのは、「より丁寧な指導・支援をして受講生の満足度が上がるようにしていく必要がある」とこういった文言のことですか。

(岡田委員)

そうですね。9割以上の受講生が満足度を示しているのだけれども、目標値にはわずかに届いていない。30年度の目標値には届いていないということはしっかり書いておいた方がよいのではと思ったのですが。

(捧教育センター長)

指標に対する評価にも、「より丁寧な指導・支援をして受講生の満足度が上がるようにしていく必要がある」という文言がありますので、それと合わせて総合評価に書きたいと思います。

(雲尾委員長)

あと、今後の方針の最後の段落なのですが、「今後はこうした児童生徒への頑張り等を学校現場へも伝えるなど」の児童生徒への頑張りということは、教員OBらの指導員が頑張っているということ伝えるということですか。

(捧教育センター長)

「児童生徒の」ですね。

(雲尾委員長)

「へ」が余分なですね。「こうした児童生徒の頑張り等」で。シートの方もそれを取るということでお願いします。

・生涯学習課所管分について、恋塚生涯学習課長が説明

(雲尾委員長)

「3-（1）生涯にわたる学習機会の充実」について、いかがでしょうか。

(岡田委員)

30年度における評価のところ、真ん中より下の「また中心市街地においては集積するステージえんがわ、中央公民館、図書館、及び歴史民俗産業資料館等の公共施設をつなげる面展開事業等の取組を通じて」というのがとても分かりにくい気がするのですが、面展開事業で一体何をしたのかということが分かりにくいと思います。下の方にスマートウェルネスのことが書いてあるのですが、具体的に30年度はどのようなことをして回遊性が生まれたのかということが分からない。

(雲尾委員長)

その上、施策の基本方針の2文目の、「中心市街地にある社会教育施設等の機能を有機的に結び付け」という部分がここに当たるとは思うのですが、平成30年度に特別にしたのか、その前からやっていたのかということ、前からもやっていたとは思いますが、その辺もどう書いてもらうかということ。

(岡田委員)

もっと分かりやすい、30年度の成果みたいなのがあるとよいのではないかと思いますのですが。

(恋塚生涯学習課長)

それぞれの施設で人、市民の方を呼び込む仕掛けというのは、これまでも当然やってきたのですが、にぎわいを持たせるといときにはそこを歩いてもらう、1か所行くだけではなくて、その隣のところへ行ってもらう、それが有機的に結びつくというところになるのですけれども。

では、具体的にどのようなことをやったのかというと、中央公民館であるとか、ステージえんがわですとか、ここに書いてある施設のイベントの一覧であるとか、講座であるとか、取組が分かるものを使って周知を図ったということが特に新しいところなのかなと思っています。そういったところまでは記載していないのですが、有機的にというところは意図的にですので、そういった形で取り組んでいるところはございます。

(雲尾委員長)

30年度における評価に書いてある「面展開事業等」というのは、今言ったようなお互いのやっているイベントが一覧で載っているチラシを作ったということですか。

(恋塚生涯学習課長)

それだけでは当然ないのですが、分かりやすいのはそういったところで。別にその全てだけでなく、特別に組んで事業を実施する、その施設同士で組んでやったりするというのもたくさんございます。一覧で見られるようになると、せっかくここに来たのならこっちも行ってみようかなというところが分かりやすいかなということで、そういったマップを作ったものでございます。

有機的にというところがもう少し分かるような形で付加させていただきます。

(岡田委員)

30年度における評価なので、今までやってきたのを全部書くのではなくて、30年度特にこういうところに力を入れましたみたいなのを。

(雲尾委員長)

あと、今後の方針、スマートウェルネスに注が付いているのですが、視点を持つのは「スマートウェルネス三条の視点を持ち」だから、スマートウェルネス三条自体に注を付けた方がよいのではないのでしょうか。

スマートウェルネス自体を説明しても、スマートウェルネスか、スマートウェルネスシティでSWCかですよね。見附市が先日賞を受けて、三条市や新潟市も取り組んでいるわけです。そうすると、スマートウェルネスの、一般的なものよりはスマートウェルネス三条

の視点を持つわけだから、三条市としてどういうスマートウェルネス事業なのかということとここでは説明された方がよいのではないかと思いますので。

(恋塚生涯学習課長)

スマートウェルネス三条のところに注を打ち直し、この中身ももう一度確認させていただきます。

(雲尾委員長)

お願いします。3-(2)については先ほど加筆の話があったところですが、先ほどの加筆のこと以外に何かございますでしょうか。

それでは「3-(3)生涯学習支援体制の整備」についてはいかがでしょうか。よろしいですか。そうしますと6に飛びまして、「6-(1)文化遺産の詳細調査、文化財指定」です。

これ、評価のところ「歴史の道八十里越保存活用事業では、只見町、魚沼市と連携して国指定遺跡を目指し」とあるのですが、これはこの順番なのですか。

というのも、魚沼市は新潟県内なので特にいらないと思うのですが、市町村でいうと、町村の場合は県名をつけるというのが一般的でもあるので。そうすると福島県只見町にした方がよいかなとも思うのですが。福島県只見町、魚沼市と並べると、新潟県が抜けているので、新潟県を入れないのなら、魚沼市、福島県只見町と連携してと書くとよいと思うのですが。でも、順番は只見町から先に書くことになっているのですね。

(恋塚生涯学習課長)

はい。

(雲尾委員長)

分かりました。6-(1)、よろしいですか。

「6-(2)埋蔵文化財の調査・保護」についてはいかがでしょうか。よろしいですか。

「6-(3)文化遺産の公開・活用」ですが、これについてはいかがでしょうか。

評価のところの2段落目の2行目、「調査成果を速やかに展示公開を行ったほか」の文章は「を」が続くので、「調査成果について」に直してください。

(恋塚生涯学習課長)

ありがとうございます。

(雲尾委員長)

あと、読んでいて分からなくなったのですが、今後の方針のところ、2つの講座を開くわけですが、最初の講座はガイド養成講座で「講座受講生からいしぶみめぐりでガイドを行ってもらう」、これは定員15人。だからこの定員はガイド養成講座の定員ですよね。講座受講生からガイドを行ってもらおうというのは、この11月上旬開催の時ではなく、もっ

と後ということですね。

(恋塚生涯学習課長)

11月上旬に、1度実際ガイドを体験します。その後はガイドになってもらい、必要な時にやっていただいて。

(雲尾委員長)

「ガイド養成講座を開催し」というのは、このガイド養成講座が11月上旬に定員15人で行われるのですよね。

(恋塚生涯学習課長)

ガイド養成講座自体は9月の中旬からスタートしまして、11月の中旬にガイドというよりは人を集めて、そこで話をしてもらおうというのが最後の講座になっております。そこで1回練習をして、それで今後ガイドとしてというところになるのですけれど。

(雲尾委員長)

ガイドを行ってもらうのは、講座受講後ですね。

(恋塚生涯学習課長)

そうです。

(雲尾委員長)

その11月上旬にあるガイド体験も養成講座には含まれるのですよね。

そして、それは11月上旬だけではなくて、9月から11月に行われるということですね。

(恋塚生涯学習課長)

おっしゃるとおりです。

(雲尾委員長)

それは一つ確認して、次の「下田地区の観光施設との連携事業などでガイドを行ってもらい(11月下旬開催、定員10人)」、これはどうなりますか。

(恋塚生涯学習課長)

それは実際下田地区での観光関連と連携したような形になっております。

(雲尾委員長)

連携しているのは分かるのですが、定員10人というのは、何の定員ですか。ガイドの定員ですか。

(恋塚生涯学習課長)

ガイドになるための定員です。

(雲尾委員長)

なるための定員。でも、文章からいうと講座ではなくて、もうガイドを行うになっていきますよね。

(恋塚生涯学習課長)

そうですね。

(雲尾委員長)

1点目は分かりました。ガイド養成講座を開催（9月～11月、定員15人）として「講座受講生からいしぶみガイドを行ってもらおう」にすれば、9月～11月の講座を15人の人が受けて、受け終わったらガイドをやるのだということが分かります。2点目がよく分からないですね。

これは、同じ人たちがやるのですか。

(恋塚生涯学習課長)

同じ人物だったら書き方を変えた方がよいと思いますし、違う形なのか確認させていただきます。

(雲尾委員長)

確認をお願いします。そのほか6－（3）、よろしいですか。

・子育て支援課所管分について、栗林子育て支援課長が説明

(雲尾委員長)

「4－（1）幼児教育内容の充実」について、いかがでしょうか。

(岡田委員)

19ページの評価の②の「新たにスキルアップ研修を実施することにより」と書いてあるものと、今後の方針の「フォローアップ研修」は違う研修でしたでしょうか。

(栗林子育て支援課長)

この研修につきましては、27年度から実施しております、まずは今後の方針のところを書いてあるような養成研修を実施いたしまして、それを受けた人は同じ年度内にフォローアップの研修をするというパッケージで27年度から実施したところであります。

ただ、これを実施する中で、対象となる職員が徐々に減ってきたため、30年度につきましては、既に前年度までにこの研修を受けた人たちが更にスキルアップのための研修ということで、新たな人ではなく、今まで受けた人に対してのスキルアップ研修ということで30年度は実施いたしました。

その後、職員の異動等もあることから、今年度につきましてはまた当初に戻った養成研修プラスフォローアップ研修を実施することということで考えているところでございます。

(岡田委員)

対象が違うということですね。

(栗林子育て支援課長)

そうです。

(雲尾委員長)

評価の②で、27年度から29年度は養成研修を行っていて、30年度はスキルアップ研修を行ったと読んでよいのですよね。

(栗林子育て支援課長)

そうです。

(雲尾委員長)

今後の方針の②のところは、養成研修をやりながら、フォローアップ研修が新たな企画ということですか。

(栗林子育て支援課長)

はい。27年度から29年度については、初めて受ける人に対する養成研修を実施しましたけれども、29年度はその終わった方に対してのスキルアップ研修、そして、今年度はまた27年度から29年度と同じように養成研修なのですが、養成研修プラス同じ年度中に更にフォローするというので、もう少し強化した研修を行うということで、養成研修プラスフォローアップ研修ですが、併せて初めて受ける人に対する研修ということでございます。

(雲尾委員長)

だから、スキルアップ研修は前受けた人がスキルアップしていて、このフォローアップ研修は養成研修をやっただけでは定着していないので、同じ年度内に更にもう一回やるといふ。だから、養成研修の一環ですよね。養成研修が長期化したというか。

(岡田委員)

研修を一回受けただけでおしまいではなく、繰り返し実施することということなのですよ。

(栗林子育て支援課長)

そうです。

(雲尾委員長)

しっかり読むと何となく分かるということですね。では、4-（1）、よろしいですか。

「4-（2）幼保小連携の推進」についてはいかがでしょうか。

(岡田委員)

21ページの新要録と書いてあるのですけれど、新というのは何かの意味があるのですか。

(栗林子育て支援課長)

保育所保育指針等が変わったことに対応して要録の一部分が若干改定されたということで、全面的に大きく変わるというものではなく、様式が若干変わったということです。

幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿ということが指針の中に組み入れられましたので、それを意識した記載となっております。

(岡田委員)

そうすると、この下の方の※の「要録とは」というのは、新要録の説明ではなく要録の説明ということなのですね。

(栗林子育て支援課長)

そうです。

(雲尾委員長)

要録の後につけているけれども、新も一緒に読み取れてしまうということですよ。

(岡田委員)

新要録の説明かと思ったのですけれども。

(雲尾委員長)

要録についての説明ということですね。

4－(3)についてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

・教育総務課所管分について、村上教育総務課長が説明

(雲尾委員長)

5－(1)につきまして、御質問等はよろしいですか。ありがとうございました。

(4) 閉会宣言 午後3時50分